

令和5年地域井戸端会 報告書

開催日時	令和5年5月25日（木）18時30分～20時40分		
開催場所	安城まちづくりセンター	参加人数	10
出席議員	三浦大紀、沖田真治、柳楽真智子	議長	○
テーマ別に 出た意見	<p>【総務文教】子どもたちと地域の関わりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶学校を通しての地域活動は行っている <ul style="list-style-type: none"> ・小学生：低学年だと弥栄の季節を感じる会。（家庭科、総合学習） ・神楽：クラブ活動としての発表会（保育園からやっている） ・中学生：自分たちで地域学習の機会があって、地域を回って話を聞くなどの活動で関わりがある。 ▶地域に帰った時には集落によって差がある <ul style="list-style-type: none"> ・寺組は子供会がない。声をあげる人がいない。 ・旅行、盆踊り、運動会、クリスマス会など、やっている集落（西の郷、野坂）とやっていないところとの地域差がある。 ▶それぞれのステージで差がある <ul style="list-style-type: none"> ・高校になってくると通学、下宿になるとどうしても関係希薄になる。 ・地域の方々の顔は知っている。（挨拶する関係） ▶部活動が少ない <ul style="list-style-type: none"> ・中学校：合唱、陸上の二つ。以前は柔道などで村外に出ているケースがあった。 ・サッカー、水泳などは習いに出ているので、地域外で過ごす子どもたち多い。 ▶地域活動は、高齢者&子供をターゲットにするとやりやすい <ul style="list-style-type: none"> ・まちセンでの計画は、3世代交流を意識。 ・夏：川遊び・・・小学生32名/40名、手伝いも十分 ・冬は餅つき・・・児童クラブと一緒に開催 ・家庭料理もいいコンテンツだが、料理は学校に入って家庭科の授業でやる。 ・学習支援を行っている。学習の習慣化が目的。学校帰りに寄れるが、一度帰ると親の都合で送迎が難しくなる。 ・「やいち」にも子どもたちがやってくる。 		

- ▶浜田高校への進学は寮生になることが必須
- ・商業への通学にはバスの時間がちょうど良いが（6人）、浜田高校へは間に合わない。
 - ・定期券補助は受けていても交通費の負担は大きい。

【福祉環境】健康について

- ・これまでの生活支援コーディネーターが来られなくなって不安。
- ・若い人との考え方のギャップがあつて、戸惑うこともある。
- ・若い人は、休日は自分の時間も持ちたいので、地域行事に出にくい。
- ・世代間をつなぐ役割の人がいるといい。
- ・サロン活動も人数が少なくなって、今後どうなるか心配。
- ・サロンに参加しない人への支援が必要。
- ・高齢者夫婦世帯のどちらかが無くなった後の、残された家族への支援も必要。
- ・小さなサロンを大事にすれば、見守りにもなると思う（相互の見守り）

○良い取組

- ・防災行政無線を活用して、午後3時にラジオ体操を流している。コロナ禍になってから、小学生の「自分たちもコロナに負けないで頑張っているの、皆さんも健康に気をつけて頑張りましょう」というアナウンスも流している。

【産業建設】農業・林業・漁業の問題点と希望について

- ・有機農業の生産は定義を第一に考える。市が進める有機農業、みどり戦略への取り組みは間違っている。
- ・第1種農地だけ考えられるが第2種農地への政策がない。
- ・センチピートによる水田畦畔の草刈り作業軽減政策の実態は除草剤の耐性ができた雑草が繁殖してしまった。
- ・日本の主食はパンになり米の消費が落ち込んでいる。小麦の価格が高騰している。小麦の代替えとして米粉、米麺、アイスクリームなど米の出口戦略を民間と行政で構築してほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物にとって海藻は肥料とは違う形で良質な効果があるという研究結果がある。研究してください。 ・昆虫が激減し露地野菜生産者は将来が不安。 ・農業法人化したことにより地域が2分化してしまっている高年齢な農業者は組織に入れないことにより農業が存続できない事態にもなっている。行政は地域の声を聞いて実情を把握し地域の実情に沿った支援をしてほしい。
自由意見	<p>【回答したもの】※回答概要も記載</p>
	<p>【持ち帰るもの】</p> <p>【総務文教】</p> <p>三浦担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後デイサービスにおける不登校児童のサポートはどうなっているのか。 ・弥栄地域内の保育園が統合した。朝晩の送り迎えが厳しい。小松ファームなどで働く人たちも送り迎えが負担になった。 ・子どものころは親の働く姿を見ながら育ってきた。会社勤めだとなかなか叶わない。年に一度会社に呼ぶなどしているところもあるが。小学校の高学年になれば米作りに参加しながら、ものづくりの大変さを知った。学校教育との兼ね合いもあるが、そういう機会をたくさん作るべきだ。 ・学校がバリアを張っている感じがする。保護者以外の大人と小学生との距離を遠くさせている。プライベートブランドで学校給食に米を納品していた。当時は栄養士とのコミュニケーションがあった。それをやめたら、学校との関係がなくなった。子どもとオーケストラを一緒にやろうと企画をしたが、けんもほろろ。一緒にやろうという理解・姿勢を見せてほしい。住民側からの提案も柔軟に聞いてほしい。 ・空き教室はないと教育委員会は言う。未利用教室であると。おかしい。 ・不登校児童とは、校門をくぐれない子達のこと。≠授業を受けていない。その数は新学期になったらリセットされる。正確に把握できているとは言えない。

- ・ 飲酒は懲戒免職の扱いだった。処分がされていない。

柳楽担当

- ・ 人口減少で集落の維持が心配。
- ・ 相談窓口があってもそこに来る人ばかりではない。出向いて情報を収集することが大事。

沖田担当

- ・ 高齢化が進む旧那賀郡の地域に興味を持ち関わろうとする若者が地域に関わってくれることで地域が活性化される。
- ・ 一日議会の学生が利用できる移動手段の構築してほしい。
- ・ 草刈り作業をする人が高齢化している。何らかの対策を検討してほしい。

【福祉環境】

- ・ 福祉計画の策定委員会の委員になっていて、内容について意見を言ったが回答内容に納得できない。
- ・ 福祉が重要。弥栄に入っていた生活支援コーディネーターは地域にしっかり入り込んで、意見や要望を聞いていただいていたが、辞められて残念。
- ・ 杵束にできた公園は、この公園に行けば友達がいるという良い効果で、人が集まっている。
- ・ 島根県東部と西部の福祉に対する温度差が全く違う。
- ・ 緩やかな見守りは住民同士で、積極的な見守りは民生委員や社協や行政だと思う。
- ・ 肥料をプラスチックでコーティングしたものが使用されているので、それが川から海に流れて汚染している。家庭からのマイクロプラスチックも環境汚染につながっている。

【産業建設】

三浦担当

- ・ 体験村は、都度問題が出ていた。三桜の神楽館もプロセスが出来レース的。お魚センター出資者への支援 7,000 万円も理にかなっていない。
- ・ 神楽やっている若者は会社を早退しなくてはいけない。神楽館より先に支援すべき。

	<p>柳楽担当</p> <ul style="list-style-type: none">・農事組合法人があることで、出番がなくなった人たちもいて人間関係が希薄になってきているように感じる。・地域の夜神楽も観光のひとつにしていきたい。 <p>沖田担当</p> <ul style="list-style-type: none">・農業従事者の高齢化対策と後継者育成制度。
--	---

令和5年6月3日 議会広報広聴委員 沖田真治